

目指す学校像	子どもがあすの授業を楽しみにする学校
--------	--------------------

重点目標	1 「おもしろい授業」に挑戦し、授業力を向上 2 徹底した児童理解 3 体力向上をはじめ、健康づくりの推進 4 学びやすい教育環境の整備 5 家庭、地域との「共育」の推進
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
 方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	(8割以上)
成	B	概ね達成	(6割以上)
度	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標			年度評価				実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ○学力学習状況調査では、概ね良好な結果であるが、学年による違いはあると考えられる。 ○日頃の学習の様子から体験的な学習や調べたり、それらをプレゼンテーションしたりする学習には意欲的に取り組む児童が多い。 ○教職員の年齢構成はどの年代も平均的な構成であり、それぞれが学んだり学びあったりする組織である。 <課題> ○自分の考えをもち積極的に発信していくところに課題がある。 ○令和の日本型学校教育の理解を深め、タブレットを効果的に活用した授業、主体的対話的で深い学びの授業など今までの一斉授業を含めよき学びのための授業法を増やす。	・居心地がよく、子どもを主語に語れる教師集団の構築と、教職員の資質向上の推進 ・学ぶ楽しさを実感できる「おもしろい授業」の創出	①「東小授業力向上プラン」「よい授業4つの因子」に示された授業改善の視点と方法に沿った自己評価やOJTを実施する。 ②「授業を見せ合い議論する」職員室文化の醸成を図る。 ②より豊かで効果的な教育活動を行うための学校業務改善を推進する。(各種教育活動のねらいの再考、行事計画や日課表の継続的な検討) ①タブレット端末の効果的な活用による「学びの自律」と「個別最適化学習」そして「協働的な学習」の実現を図る。 ②答えが1つではない問題に取り組ませる問題解決的な学習(PBL)の計画的な実施を進める。 ③コーチングの視点を導入した「教えない授業」の実施→「教える」から「学習者が主体的に学ぶ」授業を進める。	①人事評価を活用しOJTにより授業力向上が図れたか。 ②教職員の対話が増え資質向上につながったか。(以上アンケートより肯定評価8割以上) ③業務改善が図られ時間外勤務の削減等につながったか。 ①「よい授業」アンケートの因子①因子④が市平均より高いか。 ②教員アンケートにおいて「実施することができた」の回答が8割を超えたか。 ③教員アンケートにおいて、授業の中に「主体的に学ぶ」授業が構築されたという回答が8割を超えたか。				
2	<現状> ○学校評価からも「あいさつ」の励行については課題として多く挙げられている。 ○「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的に回答している児童は9割を超える。 <課題> ○多様性を認め、自分も周りの人も大切にす資質を身に付けさせるための手立てを、学校組織として構築していく。	・児童一人ひとりへの教育支援・相談に向けた校内体制の充実	①「あいさつ」を中心とした笑顔の触れ合いを推進する。 ②子どもウォッチング(徹底した児童観察と児童理解)に基づく適切な教育相談を実施する。 ③いじめの早期発見、早期対応と継続的な見守りを行う。 ④子どものよきモデルとなることを意識した行動をする。 ⑤スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、さわやか相談員、関係機関との連携による教育相談の充実を図る。 ⑥児童の主体的な判断や行動を促す。「学校生活のきまり」の在り方の検討(持ち物、学習・生活のきまり、など)	①児童アンケート等において関連項目の肯定的な回答が8割を超えたか。 ②適切な教育相談体制が整えられていたか(アンケート肯定的評価が8割以上) ③適切な対応がとられたか。 ④教職員アンケートにおいて「できた」が8割を超えたか。 ⑥適切な見直しが図られたか。				
3	<現状> ○研究指定を受け体力向上について研究してきた。コロナ禍においても児童の体力を維持向上させて行くための手立てを研究し実践している。 ○生活習慣の確立が学校生活の秩序にもつながりよりよき学校生活を進められている。 <課題> ○学級経営が基本的な生活習慣の確立に大きく影響することを鑑み教職員が連携をとり児童を指導支援していくことが課題である。	・体力向上をはじめ、健康づくりの推進	①基本的な生活習慣の確立に向けた取組の推進と学級への所属感の高揚を図る。 ②みんなが楽しい、みんなが活躍する体育の授業づくりを行う。(特に、ゲーム、ボール運動、器械運動領域に重点を置いて) ③安全で運動しやすい環境づくりと外遊びの奨励をする。 ④おいしい学校給食を提供し、食育の充実を図る。	①「心と生活アンケート」等による肯定的評価が8割を超えたか。 ②日々の教材研究により児童の授業満足度が向上したか。(よい授業アンケートにおいて向上がみられたか) ③④評価アンケートにより肯定的な評価が8割を超えたか。				
4	<現状> ○各学年学級と特別支援学級が連携をとりながら教育活動が進められている。 ○教育的配慮については組織として対応する体制が整っている。 ○地域防犯ボランティアが充実している。 <課題> ○すべての児童、そして保護者、地域の方々が学校は居心地がよく、よりよき学校をつつていこうという当事者意識を構築していく必要がある。	・学校に係るすべての人が居心地がよく安全・安心に学校に来られ、学校生活を送れる体制の充実	①ユニバーサルデザインによる学習環境の整備と指導方法の改善を図る。(見通しをもたせる、わかりやすく伝える、参加型の学習、授業内容の構造化など) ②施設設備の計画的な整備、修繕と安全点検を徹底する。 ③交通安全教育の充実と防犯ボランティア等との連携を図る。 ④美しい教育環境づくりを進める。(清掃活動の充実、子どもの作品を大切にする掲示、飼育・栽培活動の工夫)	①関連アンケートより肯定的な評価が8割を超えたか。 ②毎月の安全点検が不備なく行われ修繕等ができたか。 ③SSN関係者のアンケートから肯定的な評価が増えているか。 ④評価アンケートにより肯定的な評価が8割を超えたか。				
5	<現状> ○昨年度よりコミュニティ・スクール準備校として、目指す児童像についての熟議を重ね、協働して課題を解決していく児童、自ら挨拶ができる児童を地域全体で育てていくことを共有してきた。 <課題> ○学校運営協議会で共有したことを、学校職員、家庭、地域等で共有していくようすにする。 ○コロナ禍において学校を開放し日々の教育活動を見ていただく体制づくりをすすめる。 ○学校の教育方針を保護者、地域に伝えるたり対話したりする方策を考え、「共育」を進める。	・「共育」を進めていくための開かれた学校づくりの推進 ・東小にかかわるすべての人が当事者となりよりよき学校をつくる	①学校関係団体との一層の連携を図る ②児童の学ぶ意欲を高める家庭学習(タブレット活用も含めて)の検討と家庭への啓発を進める。 ③保護者、地域住民への積極的な学校情報発信を行う(保護者が読んで子どもに問いかけたくなるような「たより」の発行、Webページの定期的な更新、メールの効果的活用) ④コミュニティ・スクールとしての家庭、地域と連携した取組を進める。(地域におけるあいさつ、安全教育、など)	①教職員が地域等関係団体との連絡連携が実施できたか。 ②③④関連するアンケート項目の肯定的な評価が8割を超えたか。				